

2025 年度事業報告

公益財団法人鈴木万平糖尿病財団は、「糖尿病分野に関する研究者の国際的研究交流を助成し、あわせて我が国における同分野の研究者の育成を図ることにより、糖尿病学研究の一層の推進を図り、もって学術の向上発展に寄与する」ことを目的として、定款第 4 条に定める事業を実施している。

2025 年度（2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日）は、基本財産及び特定資産等の運用益並びに特定資産の取り崩しにより次に掲げる事業を実施した。

なお、運営体制の充実を図るための取り組みとして、理事については 12 名中 10 名の外部理事で構成、監事については 2 名中 2 名の外部監事で構成し、ガバナンスの強化を図っている。

1. 定款第 4 条に定める公益目的事業

助成事業（公 1）	(1) 糖尿病の研究に従事する研究者の海外留学に対する助成 (2) 糖尿病の研究に従事する外国人研究者の招聘に対する助成 (3) 糖尿病に関する会議・シンポジウムに対する助成 (4) 糖尿病に関する調査研究に対する助成
褒賞事業（公 2）	糖尿病の予防・治療等における国内の優れた業績に対する褒賞
褒賞事業（公 3）	糖尿病に関する国内外の優秀な研究実績に対する褒賞

2. 2025 年度公益目的事業

助成事業及び褒賞事業については、2024 年度第 2 回理事会（2024 年 12 月 19 日）及び 2025 年度第 2 回理事会（2025 年 12 月 1 日）において承認された内容に基づき実施した。

2025 年度も財団設立 30 周年から継続した拡充施策により、認知度向上を目的として日本糖尿病学会年次学術集会における展示ブースの出展、主な医療施設への募集ポスターの送付（郵送）、過去海外留学助成対象者（既帰国者）への Web メール配信はもとより、昨年度より始めた学会幕間動画広告として「財団紹介ビデオ（3 分バージョン）」に加え、「1.5 分バージョン」も新たに作成し、学会の規模・参集者に合わせ活用した。第 68 回日本糖尿病学会学術集会（2025 年 5 月 29 日～31 日）を皮切りに、7 回（6 学会と 1 地方会）において上映した。

2025 年度の新規助成採択数は、会議・シンポジウムが募集 5 件程度のところ 7 件であったほか、調査研究関連では、調査研究 A（臨床）7 件（募集 5 件）、調査研究 B（基礎）6 件（募集 3 件）、若手研究者調査研究助成 20 件（募集 15 件）といずれも助成事業の拡充方針に基づいて、各募集数を上回った。さらに、今年度より新たに開始した新規で研究ユニットを立ち上げた研究者を対象としたセットアップ調査研究助成についても、募集 3 件程度に対して、5 件の助成を実施した。

一方、2025 年度の海外留学助成決定者は 4 名であり、募集数（5 名）に達しなかったが、全員無事に年度内に留学が開始された。その選考委員会（2024 年 11 月 15 日）において、選出した海外留学助成候補者がすでに他財団に内定済みのため辞退する事例が散見されたため、2026 年度助成事業の募集（2025 年度内）から募集期間を例年より 3 ヶ月前倒しすることが、2024 年度第 2 回理事会（2024 年 12 月 19 日）において承認された。

2025 年度（第 18 回）鈴木万平糖尿病国内賞の表彰式並びに情報交換会は、個人、団体 1 件ずつを対象に 2025 年 10 月 17 日に開催した。

2025 年度（第 18 回）鈴木万平糖尿病国際賞については、2025 年 8 月 19 日開催の国際褒賞審査委員会で受賞候補者 1 名が選出され、2025 年度第 2 回理事会（2025 年 12 月 1 日）において承認された。本賞の表彰式・受賞者記念講演会・情報交換会は、2026 年 3 月 4 日に開催した。

2025 年度公益目的事業の総括

公益目的事業	金 額	内 訳
助成事業		
海外留学助成 1.	30,000,000 円	2025 年度新規分 (@750 万円×4 名)
同 上 2.	37,500,000 円	2024 年度継続分 (@750 万円×5 名)
外国人研究者招聘助成	0 円	応募無し@100 万円×0 件
会議・シンポジウムに対する助成	7,000,000 円	@100 万円×7 件
調査研究に対する助成 1.	31,500,000 円	2025 年度新規分 AB(@250 万円×12 件+@150 万円×1 件)
同 上 2	19,640,000 円	2024 年度継続分(@250 万円×7 件<前倒し 1 件>+@214 万円×1 件)
同 上 3.	7,500,000 円	2023 年度継続分 (@250 万円×3 件)
若手研究者調査研究助成	60,000,000 円	2025 年度新規分 (@300 万円×20 件)
セットアップ調査研究助成	40,000,000 円	2025 年度新規分 (@800 万円×5 件)
事業推進費・事業運営費	8,223,691 円	募集関連・事業運営費用
選考委員会・面接選考	2,330,387 円	開催関連費用
合 計	243,694,078 円	
褒賞事業（国内褒賞）		2 件（個人 1 名、団体 1 件）
第 18 回鈴木万平糖尿病国内賞	6,303,734 円	正賞楯、副賞、記念品
第 18 回鈴木万平糖尿病国内賞表彰式	4,158,022 円	表彰式関連費用
事業推進費・事業運営費	5,391,092 円	募集関連・事業運営費用
第 18 回糖尿病国内賞審査委員会	1,340,589 円	開催関連費用
合 計	17,193,437 円	
褒賞事業（国際褒賞）		1 名
第 18 回鈴木万平糖尿病国際賞	32,258,816 円	正賞楯・副賞・記念品
第 18 回鈴木万平糖尿病国際賞表彰式	14,986,931 円	表彰式関連費用
事業推進費・事業運営費・業務委託費	8,877,036 円	募集関連・事業運営・業務委託費用
第 18 回糖尿病国際賞審査委員会	2,390,722 円	開催関連費用
合 計	58,513,505 円	
総 合 計	319,401,020 円	

各公益目的事業の詳細は、附属明細書のとおりである。

附属明細書

1) 助成事業

海外留学助成 - 1 (2025 年度新規分 4 名)

氏名	所属
田中 慧	東京女子医科大学 統合医科学分野
村尾 直哉	藤田医科大学 内分泌・代謝・糖尿病内科学
牟田 芳実	福岡大学 内分泌・糖尿病内科学講座
安田 拓真	京都大学 糖尿病・内分泌・栄養内科学

海外留学助成 - 2 (2024 年度継続分 5 名)

氏名	所属
三根 敬一郎	佐賀大学 肝臓・糖尿病・内分泌内科
青山 二郎	東京科学大学 脳神経機能外科学分野 (旧 東京医科歯科大学)
平田 悠	神戸大学 糖尿病・内分泌内科学
岩間 康哲	大阪大学 脳神経感覚器外科学 (眼科学)
荒木 裕貴	熊本大学 発生医学研究所 細胞医学分野

外国人研究者招聘助成 (2025 年度 0 件)

なし

会議・シンポジウム助成（2025 年度 7 件）

会合名・開催日・会場	主催責任者
第 53 回日本膵・膵島移植学会学術集会 2026 年 2 月 20 日 ～ 2 月 21 日 沖縄コンベンションセンター（那覇市）	琉球大学 再生医学講座 教授 野口 洋文
第 60 回日本臨床分子医学会学術集会 2025 年 4 月 19 日 リーガロイヤルホテル大阪(大阪市)	大阪大学 代謝血管学寄附講座 准教授 西澤 均
第 39 回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会 2026 年 2 月 13 日～2 月 14 日 ウインクあいち（名古屋市）	横浜市立大学 分子内分泌・ 糖尿病内科学 教授 寺内 康夫
第 36 回日本糖尿病性腎症研究会 2025 年 12 月 6 日～12 月 7 日 和歌山城ホール（和歌山市）	和歌山県立医科大学 腎臓内科学 教授 荒木 信一
第 25 回日本糖尿病インフォマティクス学会 年次学術集会 2025 年 8 月 30 日～8 月 31 日 ホテルマリターレ（佐賀市）	佐賀大学病院肝疾患センター 肝臓・糖尿病・内分泌内科 センター長/特任 教授 高橋 宏和
第 24 回日本先進糖尿病治療・1 型糖尿病研究会 2025 年 10 月 11 日 ～ 10 月 12 日 報徳会館（小田原市）	東海大学 腎内分泌代謝内科 准教授 豊田 雅夫
第 30 回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会 2025 年 7 月 21 日 日本教育会館（東京都）	東京女子医科大学 糖尿病・代謝内科 准教授 三浦 順之助

調査研究助成－1A（2025 年度 新規分 A：臨床 7 件）

氏名	所属
竹下有美枝	金沢大学 内分泌代謝内科学
西澤 均	大阪大学 代謝血管学寄附講座
横山宏樹/前川聡	糖尿病データマネジメント研究会(JDDM)
矢部 大介	京都大学 糖尿病・内分泌・栄養内科学
加賀 英義	順天堂大学 代謝内分泌内科学
瀬ノ口 隆文	熊本大学病院 糖尿病・代謝・内分泌内科
山内 敏正	東京大学 糖尿病・代謝内科

調査研究助成－1B（2025 年度 新規分 B：基礎 6 件）

氏名	所属
下村 伊一郎	大阪大学 内分泌・代謝内科学
田中 真司	東京大学病院 腎臓・内分泌内科 南学正臣研究室
稲田 明理	奈良女子大学 生活環境学部 食物栄養学科
熊代 尚記	金沢医科大学 糖尿病・内分泌内科学
鈴木 顕	東京大学 先進代謝病態学
川野 義長	慶應義塾大学 腎臓内分泌代謝内科

調査研究助成－2A（2024 年度 継続分 助成 A：臨床 5 件）

氏名	所属
小澤 純二	大阪大学 糖尿病病態医療学寄附講座
関谷 元博	筑波大学 内分泌代謝・糖尿病内科
中村 昭伸	北海道大学 免疫・代謝内科学
前澤 喜朗	千葉大学 内分泌代謝、血液、老年内科学
川崎 良	大阪大学 社会医学講座 公衆衛生学

調査研究助成－2B（2024 年度 継続分 助成 B：3 件）

氏名	所属
清水 逸平	国立循環器病研究センター研究所 心血管老化制御部
宮塚 健	北里大学 内分泌代謝内科
三瓶 想	東北大学外科病態学講座 救急医学分野

調査研究助成－3（2023 年度 継続分 3 件）

氏名	所属
高原 充佳	大阪大学 糖尿病病態医療学 寄附講座
越坂 理也	千葉大学 予防医学センター
川上 英良	千葉大学 人工知能(AI)医学

若手研究者調査研究助成（2025 年度新規分 20 件）

氏名	所属
井上 晋一	東北大学 遺伝医療学分野
中村 慎太郎	九州大学 病態制御内科学
長野 学	広島大学 内分泌・糖尿病内科
久世 祥己	岐阜薬科大学 薬効解析学研究室
中村 晋之	九州大学病院 腎・高血圧・脳血管内科
若林 大志	金沢大学附属病院 核医学診療科
奥山 朋子	横浜市立大学 内分泌・糖尿病内科学
田中 愛	信州大学 循環病理学
井上 亮太	群馬大学 生体調節研究所 代謝疾患医科学
酒井 晋介	大阪大学 腎臓内科
寺尾 亮	東京大学 眼科学教室
大江 佑治	東北大学 腎臓内科学分野
小林 祥子	大阪大学 内分泌・代謝内科
西田 康貴	藤田医科大学 内分泌・代謝・糖尿病内科学
三浦 絵美梨	愛知医科大学 糖尿病内科
五十嵐 正樹	東京大学 糖尿病・代謝内科
井上 光子	北里大学 糖尿病・内分泌代謝内科
小林 直樹	国立国際医療研究センター 糖尿病研究センター
川瀬 治哉	名古屋大学附属病院 循環器内科
孫 ユリ	北海道大学 遺伝子病制御研究所 細胞生物学

セットアップ調査研究助成（2025 年度新規分 5 件）

氏名	所属
窪田 直人	熊本大学 代謝内科学講座
小栗 靖生	奈良女子大学 食物栄養学領域 臨床栄養学分野
恒川 新	岐阜大学 糖尿病内分泌代謝内科
及川 洋一	埼玉医科大学 内分泌内科・糖尿病内科
有馬 勇一郎	熊本大学 心臓発生研究室

2) 褒 賞 事 業

・ 2025 年度（第 18 回）鈴木万平糖尿病国内賞

[個人]	
橋本 祐子 氏 （医療法人社団 亮仁会 那須中央病院 看護師）	
推薦者	内海 香子 氏（日本糖尿病教育・看護学会 理事）
受賞理由	2006 年よりとちぎ糖尿病スタッフの会の理事を務め、2021 年からは「とちぎ CDEJ の会」を立ち上げ、会長として牽引・活動し、多くの CDEJ の資格保留に貢献してきた。また、フットケアや高齢糖尿病患者の看護にも精通し、各種研修会の開催や講演を通じて栃木県近隣の医療者の教育・支援に尽力しており、コロナ禍での WEB 開催では、その活動が全国的に知られた。さらに、その啓蒙活動は介護施設にも及び、訪問看護ステーションとの連携強化にも貢献している。 これらの活動には一貫性があり、所属施設を越えた活動の難しさが時にある中、一看護師としてできる糖尿病地域医療における活動の先駆的なモデルとして、波及効果も大きく、これらの業績は本賞に値する。
[団体]	
神奈川県内科医学会糖尿病対策委員会（代表 松葉医院 院長 松葉 育郎氏）	
推薦者	寺内 康夫 氏（日本糖尿病学会 理事）
受賞理由	1980 年代から長きにわたり、神奈川県内の地域に根差した開業医が中心となって、大学などの医療機関、行政、患者団体、KLCDE と有機的に連携することで、県内の実情に合わせた糖尿病対策を推進してきた。特に、非専門医や医療従事者への研修会開催による継続的な啓発活動は県内の糖尿病診療の向上に多大な貢献をしたと共に、糖尿病合併症予防や重症化予防、学術活動にも精力的に取り組み成果を得てきた。その包括的かつ組織的活動は「神奈川モデル」として日本全国の多くの医師に広く認知され、影響を及ぼす成功例となっている。 これらの活動は長きに亘り、一貫性があり、その波及効果も大きく、上記の業績は本賞に値する。

・ 2025 年度（第 18 回）鈴木万平糖尿病国際賞

受賞者 	Roman Hovorka, PhD. Professor of Metabolic Technology University of Cambridge, Institute of Metabolic Science
推薦者	Dr. Stephen O'Rahilly, University of Cambridge
受賞理由	The Selection Committee highly recognized Dr. Hovorka's pioneering contributions over the years to develop a glucose control algorithm for the closed-loop insulin delivery system. The Committee also highly recognized his landmark contributions to conducting clinical trials demonstrating safety and efficacy of the closed-loop insulin delivery system, which has resulted in meaningful improvements in quality of life for people with type 1 diabetes and their families. 《日本語訳》 Hovorka 博士は、クローズドループ型インスリン注入システムにおけるグルコース調節アルゴリズムの開発を長年にわたりリードしてきました。審査委員会はこの点を先駆的な貢献と高く評価しました。審査委員会はまた、同博士が臨床試験を指揮してクローズドループ型インスリン注入システムの有効性と安全性を明らかにしたこと、そしてこのことが1型糖尿病患者とその家族のQOLに意義のある改善をもたらしたことも、画期的な貢献と高く評価しました。